

上場地域に適した多収で食味、外観とも優れるカンショの新品種 ‘関東132号’					
[要約] <u>カンショ</u> ‘ <u>関東132号</u> ’ は ‘ <u>べにまさり</u> ’ および ‘ <u>高系14号</u> ’ よりも上いも数が多く、 <u>多収</u> である。また <u>良食味</u> で <u>肉質</u> は <u>やや粘質</u> であり、いもの表面が滑らかで <u>外観</u> も優れ有望である。					
上場営農センター・研究部・畑作経営研究担当				連絡先	0955-82-1930 uwabaeinousenta@pref.saga.lg.jp
部会名	上場営農	専門	栽培	対象	いも類

[背景・ねらい]

上場地域は県内最大のカンショの産地で、現在の主要品種は‘べにまさり’である。しかし、農家の高齢化に伴う労働力不足等により年々作付面積が減少している。一方、市場や栽培者からは多収でおいしい品種が求められ、新品種が続々と登場している。そこで上場地域に適した優良品種を選定し、カンショの生産拡大をはかる。

[成果の内容・特徴]

1. ‘関東 132 号’ は慣行品種の ‘べにまさり’ および標準品種の ‘高系 14 号’ よりも上いも収量が 3 割、上いも数 5 割多く多収である (表 1)。
2. 現地試験 (唐津市鎮西町 3 圃場平均) では ‘関東 132 号’ は ‘べにまさり’ よりも 3 割以上収量が多い (図 1)。
3. ‘関東 132 号’ の蒸しいもの食味評価は、回答者のうち ‘べにまさり’ よりもややおいしい～おいしいと回答した割合が 67%、‘高系 14 号’ に対しては 78% と高く、また肉質はやや粘質である (図 2、表 2)。
4. ‘関東 132 号’ は ‘べにまさり’ および ‘高系 14 号’ より条溝が浅く、皮が滑らかで外観に優れている (表 2、図 3)。

[成果の活用面・留意点]

1. ‘関東 132 号’ は (独) 農研機構 作物研究所において多収の ‘関東 123 号’ (♀) と、多収で外観に優れる ‘ベニオトメ’ (♂) を交配して育成された青果用品種である (平成 26 年品種登録出願予定)。
2. 草勢が強く、つるが巻きやすいため、絡まらないよう育苗時には密植を避け、採苗間隔が長くないようにする。
3. ‘関東 132 号’ は焼きいもにした場合、冷めても硬くならずおいしい。また、多収で大きいいもが多いため加工用にも対応できる。

[具体的データ]

表1 ‘関東132号’の収量における対象品種との比較

	試験品種	比較品種	収量・個数 (kg/a、個/a)	比較品種との 収量差	収量差の 95%信頼区間
上いも重	関東132号		352	-	-
		べにまさり	271	68	55 ~ 82
		高系14号	247	92	70 ~ 115
上いも数	関東132号		1,782	-	-
		べにまさり	1,153	681	324 ~ 1,038
		高系14号	1,203	613	404 ~ 821

※DerSimonian-Laird method(変量効果モデル)を用いたメタアナリシスにより5カ年の試験における各品種のa当たり上いも重および上いも数を評価した。収量差とその95%信頼区間が正の値の場合は‘関東132号’が比較品種よりも多いことを示す。

※5カ年とも植付け時期は5月中旬、収穫時期は9月中旬の約120日間栽培

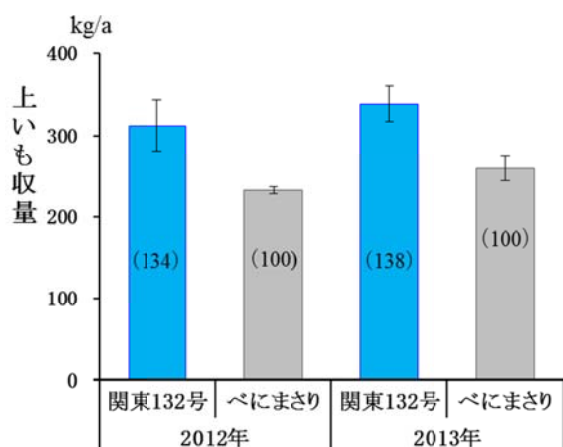


図1 現地試験での収量

※2012年は120日間、2013年は150日間栽培

※植付け時期は5月14～20日頃

※2カ年ともに唐津市鎮西町3ほ場で実施

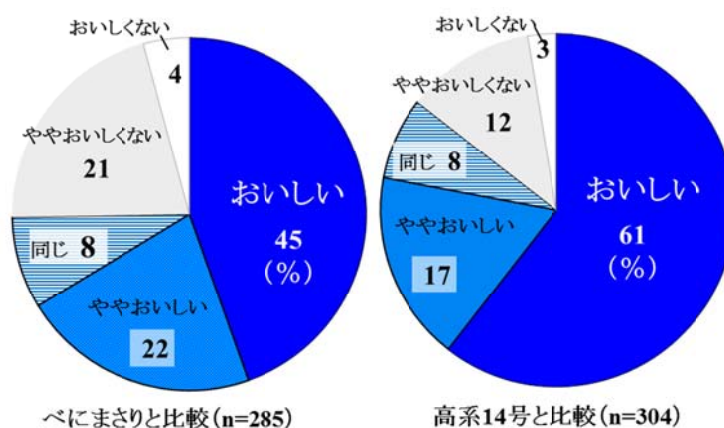


図2 関東132号に対する食味評価

※調査期間は2013年10月25日～11月24日

※調査対象は上場営農センター職員および来所者、
鎮西町産業祭来場者(10歳未満～80歳代)

表2 外観および食感

品種名	塊根						蒸しいも	
	形状	皮色	肉色	条溝	裂開	外観	肉質	繊維
関東132号	紡錘	赤紅	淡黄	浅	小	やや上	やや粘	やや少
べにまさり	短紡錘	赤紫	淡黄	中	小	中	やや粘	やや少
高系14号	紡錘	赤紅	淡黄	中	無	中	中	中

※蒸しいもの肉質および繊維については
上場営農センター職員(約20名)の試食により判定。



図3 ‘関東132号’の外観と蒸しいもの肉色

[その他]

研究課題名：上場地域における畑作・果樹等の優良系統・品種の選抜試験

予算区分：県単

研究期間：2009～2013年

研究担当者：浦田貴子, 石橋哲也, 大坪竜太, 檜崎耕輔

発表論文等：九州沖縄農業試験研究推進会議畑作推進部会いも類研究会(2009～2013)